

平成 27 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 2 回 会議録

開催日時 平成 27 年 8 月 26 日（水） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分

開催場所 生駒市役所 3 階 302 会議室

出席者

（委 員） 森委員長、松岡副委員長、藤堂委員、谷中委員、下野委員、塚原委員、一柳委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課課長補佐、島田企画政策課副主事、片山企画政策課係員

（傍聴者） 2 名

欠席者 小林委員

1 開会

2 案件

（1）後期行動計画の取組状況の確認について

（森委員長） 後期行動計画の取組状況について、各委員から意見や総合評価の修正案を出していただいている。それを基に、取組状況に対する評価を議論していきたいと思う。先に個別の案件を見てから、最後に評価全般を議論するという流れで進めていきたいと思う。よろしいか。

（各委員） はい。

1. 行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有【重点】

（森委員長） 評価できる点としては、生駒市の良さをしっかりと発信もできているとの意見が出ている。今後の取組課題としては、議会報の改善や、ホームページのアクセス件数の追跡方法が挙げられている。取組全体としては、事務局案どおり B 評価で良いと思う。意見はあるか。

（各委員） 意見なし。

2. 情報共有の充実に向けたツールの活用

（森委員長） 取組全体に対して、下野委員、一柳委員から意見をいただいている。事務局案は A 評価である。意見はあるか。

- (藤 堂 委 員) 広報紙だけでは周知しきれない部分を、デジタルツールを活用して補完しているのだと思うが、高齢者の立場で見ると、デジタルツールより紙媒体の方がなじみがあり見やすいと思う。デジタルツールを使わない人に対して、広報紙だけで十分に情報発信ができているのか疑問に思う。
- (塚 原 委 員) 市民全員に情報を届けることは不可能かもしれない。中には情報を知らないことで損している人もいると思う。
- (藤 堂 委 員) 市民全員に情報を届けることは不可能かもしれないが、市としてはあらゆる方法で情報を発信し続ける必要があるのではないか。
- (塚 原 委 員) どこまで広報するかは誰かが決めなければならないと思う。
- (森 委 員 長) 年齢によってもなじみのある媒体が異なっているので、あらゆる媒体を駆使して情報発信をしていかないといけない。特に、知らないことで不公平が生じるような重要な案件であれば、要請がなくても出前講座等を行って重層的な広報をしていく必要があると思う。
- (下 野 委 員) デジタルツールも活用できているし、広報紙に関してもコンクールで入選していたり、読んでいてとても分かりやすい。行政側はできる限りの努力をしていると思う。あとは市民が読むか読まないかだと思う。
- (森 委 員 長) 市としては、今後デジタルツールへ移行していく方針なのか。
- (事 務 局) 従来からの広報紙やホームページといった方法に加えて、新たな方法としてこの取組項目に挙げている。広報紙をなくすことは今のところ考えていない。
- (一 柳 委 員) ごみ有料化の際に、自治会で要請して出前講座を行ってもらった。質疑応答もでき大変充実していた。
- (事 務 局) 広報紙やホームページはどうしても一方的な広報で終わってしまうが、どこでも講座(出前講座)だと質問等もしていただければ双方向でやり取りができる。疑問点も解消していただきやすいと思うので是非活用していただきたい。
- (一 柳 委 員) 市民からの出前講座の要請は多いのか。
- (事 務 局) ごみ有料化や防災関係など市民生活に直結するメニューについては、要請も多いが、そうでないメニューは少ない傾向にある。
- (藤 堂 委 員) 今後、担当課が取組状況を報告する際には、概ね好評といった漠然とした報告ではなく、アンケート結果等に基づいた具体的な報告をしていただきたい。
- (森 委 員 長) アンケートは実施しているのか。
- (事 務 局) どこでも講座に関しては、実施した後に報告書を提出していただいている。
- (森 委 員 長) この項目では広報の一部が挙げられているが、様々なツールを効果的

に活用しているのので、事務局案どおり A 評価で良いのではないかと思います。
よろしいか。

(各 委 員) はい。

3. 市民自治協議会の設立拡大と運営支援【重点】

(森 委 員 長) 取組全体に対して、藤堂委員、谷中委員、一柳委員から意見をいただいている。事務局案は D 評価となっている。意見はあるか。

(藤 堂 委 員) 自治連合会の立場から発言させていただくと、自治連合会と市民自治協議会は別物である。自治連合会は自治会だけで構成されているが、市民自治協議会は自治会だけではなく、NPO や企業も含めたその地域の在住者全てを包括して、地域の抱える問題の解決に向けて活動していく組織である。運営していくには自治会が中心にならざるを得ない事情もあるが、地域在住者全てを構成員としているので、各自治会によって発言力の違いがあるわけではないと思う。全体を包括するとなると運営が難しいので浸透していない部分もあると思う。

(森 委 員 長) 地域単位で活動している自治会と、テーマ単位で活動している NPO などの団体等と一緒に集まって、地域の抱える課題に対して取り組んでいくことを目的としているのが市民自治協議会である。ただ、実際の運用はとても難しいのが現状である。

(藤 堂 委 員) 自治会でも人材が不足している中、さらに大きな組織である市民自治協議会を牽引してくれる人材はなかなか見つからない。また、地域が主体となって運営していくということだが、地域だけでは解決できない問題もあるので、行政の支援も必要になってくると思う。

(下 野 委 員) 市民自治協議会自体がまだまだ知られていないので、まずは市民への周知が必要だと思う。

(森 委 員 長) 市民に周知できていないことも含めて、D 評価が妥当なのではないか。
よろしいか。

(各 委 員) はい。

4. 市民、NPO など協働のパートナーへの支援【重点】

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価である。何か意見はあるか。

(藤 堂 委 員) マイサポいこまは評価できる。他市で同様の取組を行ったが、うまくいかなくてなくなったという話も聞いている。生駒市でも今後定着せずに尻すぼみになってしまわないか心配である。

(森 委 員 長) 行政がどんどん小さくなっていく中で、市民生活を支えていくためには NPO 等の力が必要になってくる。行政としては市民活動を支援するこ

の制度は推進していかなければならないという考えだと思う。制度自体がなくなるリスクもあるということなので制度のあり方について検討しなければならぬと思う。

(藤堂委員)　マイサポいこまは、市民が応援したい団体に対して支援を行うものだが、その団体の活動に関係のある市民からの支援が多いのが現状である。関係者が多い大きい団体ほど支援が集まりやすいが、規模の小さな団体はなかなか支援が得られないという問題点がある。市民の意識が変わって、自分に関係がなくても支援したいと思ってもらわないと存続が難しいのではないかと思う。

(下野委員)　それぞれの趣味で活動している団体に対してなぜ支援しないといけな
いのかと思っている市民も多いのではないか。

(藤堂委員)　マイサポいこまは団体の運営費等ではなく、事業に対しての支援とい
うことになっている。

(一柳委員)　支援を受ける市民活動団体自体は多いほうが良いのか。

(藤堂委員)　市の方針としては増やしていきたいのだと思う。

(事務局)　市民サービス全てを行政が担うことは不可能になってきている中で、
市民の方々の中で行政の手の届かない部分をやっていただいている。市と
してはあらゆる分野の市民活動団体に積極的に活動してもらいたい。マイ
サポいこまにおいては、多くの団体が登録されて、多くの方が支援される
姿が望ましいと考えている。

(松岡副委員長)　現代社会では、地域の繋がりや市民同士の関わり合いが希薄になっ
てきている。市民が関わり合える場がある地域と無い地域では、同じ政策を
行っても異なった成果が出るというような研究結果も出ている。そういう
意味でも多くの市民活動団体が活動して市民が関わり合える場を作るこ
とには意味がある。行政もこのような制度を推進して市民活動団体を支援
していくべきと思う。

(森委員長)　分野によっては行政が手を出さず、専門的に活動している団体に任せ
た方が良い分野もある。

(谷中委員)　事務局等の説明を聞いて制度について理解できたが、広報に載ってい
る情報だけでは、制度の理念や目的が十分に理解できない市民も多いと思
う。

(森委員長)　取組を更に推進していくためには十分に周知していかなければならぬ
。取組として課題はあるが、数値目標等から判断すると B 評価で良いの
ではないかと思う。よろしいか。

(各委員)　はい。

5. 市民政策提案制度の効果的な運用

- (森 委 員 長) 取組全体に対する意見として、広報不足であるという意見が出ている。事務局案は E 評価となっている。何か意見はあるか。
- (谷 中 委 員) 具体的にどのような制度なのか。
- (事 務 局) 市民が持っているアイデアを制度化して公式に募集している。もちろん制度がなくても提案は受けているが、制度化することによって担当課だけで判断することなく、市長まで伝わる仕組みとなっている。制度ができたときに立て続けに 2 件提案していただいたが、その後提案がない状況である。
- (谷 中 委 員) 市民からの提案については、採用されなかったときでも誠意を持った回答することが大事だと思う。様々な事情で断ることが多いと思うが、なんでも否定的に門前払いされると提案する気が起こらないと思う。
- (事 務 局) 提案をいただいたときは、しっかりと審査を行い不採用の場合でも理由を示して書面で回答しているが、2 件しか提案がないところを見ると何かしら問題があるのだと思う。
- (藤 堂 委 員) 提案するハードルが高いことも原因だと思う。漠然としたアイデアは持っているが、政策提案として書き起こして市に持って行くところまでは至らないのではないか。
- (塚 原 委 員) 政策となると一市民が提案していいものなのかとってしまう。意見が全くない訳ではないと思う。提案のハードルを下げれば意見が集まるのではないか。
- (事 務 局) ききみみポストや問合せメールなど意見を出す方法はいくつかあるが、市民政策提案制度は、意見に止まらず具体的な課題解決方法など、意見から一歩進んだものを提案していただくことを想定している。
- (塚 原 委 員) 制度の名前が難しいのかもしれない。
- (谷 中 委 員) 一般的な単語を使ったほうが身近に感じる。自治会や NPO からの提案も受け付けるのか。
- (事 務 局) はい。どちらかと言えば個人よりも団体からの提案を想定している。できれば提案いただいた方も一緒になって取組を進めていきたいという思いがある。
- (森 委 員 長) この制度に関しては、まだ模索段階である。そういったことも踏まえて E 評価で良いと思う。よろしいか。
- (各 委 員) はい。

6. 総合計画に基づく施策・事業の進行管理【重点】

- (森 委 員 長) 予定どおり進められていると思う。事務局案は B 評価である。意見は

あるか。

(各委員) 意見なし。

7. 民間委託の範囲の拡充など民間活力のさらなる活用【重点】

(森委員長) 事務局案はB評価であるが、下野委員からC評価の方が良いのではないかという意見が出ている。意見はあるか。

(藤堂委員) 達成状況の欄に「竜田川浄化センターの廃止を検討」とあるが、これは、施設自体を廃止するということか。それとも民間委託を行うということか。

(事務局) 現在は市内の約半分の汚水を竜田川浄化センターで処理し、残りの半分を奈良県の浄化センターで処理している。今後、市内の汚水すべてを奈良県の浄化センターで処理してもらうことにより、竜田川浄化センターが要らなくなるので、施設自体の廃止に向けて検討を進めているところである。

(下野委員) 実施内容に「民間委託による効果等の検証」とあるが、取組状況では検証されたことの記載がないのでC評価が妥当ではないかと思う。

(事務局) 効果等の検証は、民間委託する前に行っているので、前提として含まれている。

(森委員長) 今後の課題として、個人情報の取扱いに関して意見が出ているが。

(事務局) 市民課の窓口委託に関しては、委託先との契約書にも守秘義務を明記しており、職員個人に対しては誓約書を提出してもらっている。

(塚原委員) 誓約書を書いたから情報漏えいがなくなるという訳ではないので、物理的な対策や万が一のときの責任の所在をはっきりとさせておいてほしい。

(森委員長) 委託先の選定時には、個人情報の取扱いについて信頼できるかどうかチェック項目に含まれていると思う。それでも100%安心と言うわけではないので、どの業務まで委託するか委託の範囲をしっかりと考えないといけない。この取組に関しては、情報漏えい対策をしっかりとした上で、慎重に進めてもらいたい。

(事務局) 情報漏えい対策として、市民課の窓口委託に関しては、住民票等の発行業務は職員で行っている。また、コスト面以外にも、繁忙期に職員の数を調整できるといったメリットもある。そういったことを総合的に考えて民間委託を導入した。

(谷中委員) 窓口業務全てを委託していると思っていた。わざわざ市民に対して言うことではないのかもしれないが、民間委託の導入について情報漏えい対

策をしていると知って安心した。

(森 委 員 長) 評価については、事前に検証した上で委託しているということであれば事務局案どおり B 評価で良いと思う。

(各 委 員) 異議なし。

8. 指定管理者制度の効果的運用

(森 委 員 長) 事務局案は C 評価となっている。意見はあるか。

(塚 原 委 員) モニタリングはどういう方法で行っているのか。利用者の意見は反映されているのか。

(事 務 局) 指定管理者と市の間で適正に管理運営されているかどうかを毎年評価している。利用者に対するアンケートを基にモニタリングを行ってサービス向上につなげているので、全利用者という訳ではないが、意見が反映される仕組みにもなっている。

(塚 原 委 員) せっかく良い取組をされているのに分かりづらいのはもったいないと思う。

(森 委 員 長) モニタリングについては適正に実施されているが、公募実施率が目標に達していないということで C 評価となっている。よろしいか。

(各 委 員) はい。

9. 既存公共施設等の活用と長寿命化に向けた中長期的な計画策定【重点】

(森 委 員 長) 数値目標に基づいて事務局案は B 評価となっているが、下野委員から C 評価の方が良いのではないかという意見が出ている。意見はあるか。

(下 野 委 員) 実施内容にある「点検に基づく補修工事等実施」が実施されていないことと取組状況の区分を考慮して C 評価の方が良いのではないかと思った。

(事 務 局) 橋梁等の補修工事は実施しているが、部の仕事目標として挙げられていないため取組状況に記載していない。

(森 委 員 長) 取組として補修工事も含まれているということならば B 評価で良いと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

10. 広域連携を活用した事業等による市民サービスの向上【重点】

(森 委 員 長) 事務局案は B 評価となっている。消防本部通信指令センターの共同運用とは具体的にどのようなものか。

(事 務 局) 通常は 119 番通報があった場合、生駒市消防本部に繋がり、出動命令を出しているが、それを奈良市と共同の施設で運用しようというもの。

それによりコストを削減することが出来る。奈良市を経由すると時間がかかってしまうのではないかと意見が出ているが、設備的に生駒市単独での運用も可能となっているので、大規模災害時には奈良市を経由せず単独で運用することができる。

(谷 中 委 員) 大規模災害時以外は、119番通報すると奈良市の通信指令センターにつながり、そこから生駒市の消防署に出動命令が入るのか。

(事 務 局) はい。

(下 野 委 員) 来てほしい場所など地元の人しか分からない場合があるので、奈良市の通信指令センターを利用することに不安もある。

(事 務 局) 119番通報の場合は発信元を探知する機能があるので、奈良市の通信指令センターであっても、目的地を特定することができる。

(森 委 員 長) 生駒市民の不利益が生じない範囲で他市町村と連携を推進してもらいたい。評価については事務局案どおり B 評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各 委 員) はい。

(2) その他

第4回の日程調整

3 閉会